



Spikes Asia 2018

HAKUHODO Institute of Life and Living ASEAN



スパイクスアジア2018

バンコク研修
参加感想



Rabbit Digital Group

ENSEMBLE THAILAND



<ADKインターナショナル・川崎 雄也>

海外の広告祭への参加は今回が初めてでした。セミナーだけでなく、表彰式からレセプションパーティーまで参加させていただくことができ、生の声が聞けて会場の熱気を肌で感じる事ができたのは、普段Webの記事などを通して得ていた情報だけでは知ることのできない感覚でした。

タイでの企業訪問含めた他国で過ごした6日間とその後のレポート作成を通じて、共に同じものを見て聞いた研修メンバーの方々とだんだんと話をする機会が増え情報交換することができ、なによりクリエイティブに対して他社の方々それぞれの考えを聞くことができたのはとても刺激になりました。普段なかなかない貴重な経験でした。ありがとうございました。

<JR西日本コミュニケーションズ・石井 正文>

アジアとひと括りにしても、生活水準や文化、社会や政治も違う、色々な国の人が集まり、広告が今後より良い社会にどう寄与出来るかを、セミナーや良い仕事を表彰することで考えようとするスパイクスアジアの熱量は、40歳になった自分にも、モチベーションを芽生させてくれる場でした。

広告がより良い社会である、誰かのために機能することを信じて取組む可能性や、素晴らしい結果をアジアという視点でも見ることができ、自分の仕事にも少しでもそういった視点をいれることが出来たなら、思うことができたのが何より良い経験でした。

<JR西日本コミュニケーションズ・秋友 宏紀>

貴重な経験をさせていただきまして、ありがとうございました。タイにおける広告会社訪問は他社、特に海外の広告会社の方とお話しさせていただく機会がほとんどないため、非常に勉強になりました。

東南アジア圏における経済発展は日本のそれよりも非常に早いスピードにて進展していることを改めて実感いたしました。私が想像していたよりも急速にインターネットの普及度やデジタルマーケティングの進展度が高い上、活気に満ちており、閉塞感とは無縁の中で新しいチャレンジを次々と行っていく姿勢を間近に見て、自分自身の業務の取り組み方について考えさせられることも多かったです。本研修にて学んだこと、考えさせられたことを今後の業務にも活かしていければと思います。

<電通アドギア・島田 京代>

日本の広告業界では今なお「デジタル化」が声高に叫ばれていますが、タイで訪問した広告会社は、そんな気負いはなくデジタルもアナログもフラットに乗りこなしている印象。特にタイは最近情勢が安定し、もともとユーモア好きな国民性も手伝い、面白い事例が多く、業界全体に勢いを感じました。アセアン諸国の多くはテレビよりスマホのほうが早く普及したから・・・という理由はあれど、何かと広告が炎上しがちでデジタルにコンプレックスのある日本からすると、うらやましい状況です。博報堂総研のアセアン諸国の家事分担についてのレポートでもあったように、ジェンダーイコールの意識も日本より進んでいるようでした。こう見ていると、超成熟・少子高齢化社会の日本はこれからしぼんでいくだけ??と危機感も浮上しますが、スパイクスアジアでアイデアやユーモア溢れる作品や事例に接することで、スピード感を持って成長するアジアの波に、自分もいちアジア人として乗っかりたい!と思いました。

<電通アドギア・菅家 裕規>

広告業界に入ってメディア・営業を経験し14年目になるのですが、恥ずかしながら初めて海外の賞参加、海外研修となり貴重な経験をさせて頂きました。

それは目の前にある仕事に追われている中（それも大事なのですが）、短い期間でしたが違う広告の空気に触れる事が出来たという事と、業種にとらわれず広告の領域は広がっており、世界には色々なチャンスがあるという事です。このきっかけを活かし、自分も少しずつ進化していきたいと思います。

また、参加メンバーにも恵まれました。日常に戻ればクライアント、競合社、協力会社となる方々と利害関係がなく楽しく話が出来る貴重な体験となりました。本当にありがとうございました。



<電通九州・塚崎 一郎>

JAAA Spikes Asia 2018 研修ツアーを終えて、日々の業務において、様々な経営課題に対して如何に効率的で効果的なソリューションを提案できるかを模索しながらあくせくとミッションをこなしている。今まで見たことのない映像だとか、今まで体験したことのないイベントだとかを目指しながらも、どこかで「どうせ理解してもらえない」「お金にならない」「割に合わない」と理屈をつけて誤魔化してきた感もあるが、世の中大体そんなもんだらうと達観した様に今回の研修に参加した。

生活や文化、社会や政治などの違いはあれ、もともと豊かではない国々がテクノロジーによって様々なソリューションを実現していくそのエネルギーは、とても鮮烈で輝いて見えたし羨ましくも感じた。今回訪問した会社での話や会場で登壇しプレゼンされた話も、それぞれ普段の仕事とは一線を画した事例であろうが、長年培ってきた経験に押しつぶされそうだった自身の仕事への向き合い方に、一光の道筋を示すには十分な内容であったし、売上や評価に向けた自身の指標に、「誰かのため」というちょっと恥ずかしいが自分の仕事に誇りが持てる指標を持てたことは、とても大きな成果だと感じている。

<電通九州・左 俊幸>

このツアーに参加するまで、僕は海外の広告にまったく興味がありませんでした。というか正直に言うと「日本の広告なんだから日本でウケれば良くないですか?」「海外賞を欲しがるのは制作者のエゴなんじゃないですか?」ぐらいのことまで思っていました。

でも今回、タイのエージェンシーを訪問したり、スパイクスアジアに参加させて頂く中で大きな刺激を受け、これからの広告のあり方を強く感じる事ができました。特に「広告だと思われない広告であることが大切」「スーパーフラットな時代になっている」「イノベーションを起こすためにはとにかく諦めないこと」「産業としても個人としても信頼を得ていくことが大切」「より大きな課題を解決すべくクリエイティブはいろんな人々と協業していくべき」等の言葉に強い感銘を受けました。

<日本経済社・日月 雅人>

初めてのアジア。初めての広告祭。「どんなもんか」と思いましたが、なんとと言っても、（当たり前かもしれませんが）“アジア”と一括りにはできない多様性。そして勢い。発展途上と言われる国がデジタルの波に乗り、一足飛びに成長するスピード感には驚きました。

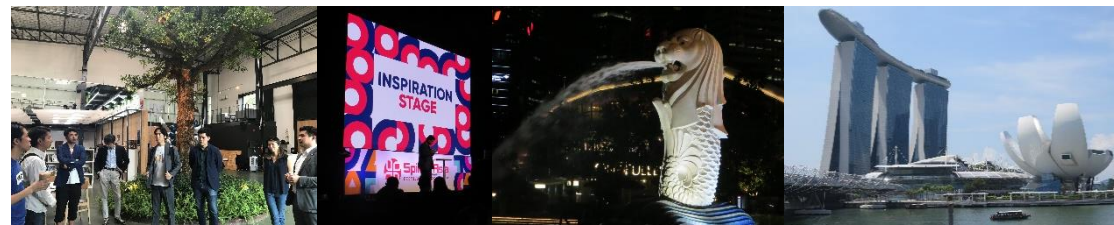
一方で、どこに行っても変わらないと思ったのが、クリエイティブの本質。「人のためにできることをする」という姿勢。「どこにでも解決すべき課題はある」と某スピーカーも言っていましたが、スパイクス受賞作品は、各国で社会課題の解決を追求し、実践したものばかり。そんな力強い作品の数々を見ていると、励みと妬みが同時に込み上げてくるようでした。

日本で働いていても、日本ばかりを見ていてはいけな。そう痛感するほど、刺激的な経験でした。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

<メトロアドエージェンシー・中嶋 悠太>

今回のツアーを通じて日本と海外のクリエイティブや企業風土の違いを学ぶ良い機会になったと思う。スパイクスアジアでは2018年の最新の広告トレンドやテクノロジーを学ぶことができるというよりも、2016年・2017年など過去に多く取り上げられていた広告や社会におけるテーマがより年月の経過とともに、一層の社会性を帯び、企業のブランド姿勢がより本質的な方向に変化し続けていることや、社会課題がより細分化されるような形で、各スピーカーや企業を通じてアップデートされ語られていて、私自身も日常的に上記のような社会性を捉えながら働くことの必要性を感じた。

また日常的な業務視点に加え、広告祭のような異なる角度で集中的に各企業の広告活動をインプットすることは非常に刺激的であったし、中でも表彰式で同世代が自身の力でヤングスパイクスの代表として壇上でガッツポーズをしている姿は、なによりも奮奮するきっかけになった。このような研修の学びを業務にも活かし成長とチャレンジを繰り返し、次回は研修ツアーではなく参加者として広告祭を訪れることができるように努力したいと思う。



<花王・春日沙央里>

普段の業務では味わうことのできない体験ばかりで、あっという間の1週間でした。企業訪問を通じてアジアの広告の現場を肌で感じ、これから右肩上がりに発展していくであろうタイの広告業界と若い世代のクリエイターの姿に刺激を受けました。スパイクスアジアでは最前線で活躍される方々のお話を生で聞き、世界のクリエイティブの潮流を知ると共に、日本を「世界の中の日本」として広い視点で捉える良いきっかけとなったと思います。

研修ツアーを通じていちばん心に残ったことは、テクノロジーがクリエイティブの可能性を広げていること。けれど、テクノロジーがどんなに発達しても、人間の存在や感情が主役であることに変わりはないということです。広告をつくるうえで、人の幸せを考えていくことは、今後も変わらない使命だと感じました。今回のツアーで得た気づきを、今後の実務に生かしていきたいと思います。

<花王・花井 美貴>

日々、自分の会社の広告制作ばかりをやっていると、日本の生活者のインサイト、トレンド、商品の価値…と、視野がとても狭くなっていることを感じます。今回のツアー参加によって、テクノロジーを使って新しいことをしていく事例や、生活者のインサイトをついたシンプルでアナログな手法の事例、グラフィックの美しいポスターや、ジェンダーや人種差別をテーマにした企業メッセージ広告など、アジアから世界に発信する広告コミュニケーション、クリエイティブのクオリティの高さなどを肌で感じ、視野を広げるいい刺激になりました。

商品売るための広告は、ファンを作るための手段に、企業は人々のコミュニティに入っていくコミュニケーションが必要になっているのだなと感じたことは、胸に刻んで、これからの日々の業務に取り組みたいと思います。

<花王・久原 千枝>

今回の研修で感じたことは、「人々が何を求めているか、そして企業・ブランドは何ができるのか」ということにアンテナをたてることの大切さを改めて実感した。ペディグリーの愛犬家のためのセルフイーの施策や、ナイキのランナーたちに向けたBreaking 2施策、ラグビーのサポーターを狙った「FIGHT FOR TERRITORY」などコミュニティを熱くさせるブランディング・広告をつくらなければ、情報・広告があふれる今の時代では届かない。また、今までは「スマホ」ありきで広告をつくっているが、タイの企業研修で「スマホの次にくるデジタルは何かを考えないといけない。既にフィリピンではアマゾンエコーが増えている」という話があり、ASEANのデジタルも常にチェックしながら、これからの業務に活かしていきたい。

<ハウス食品・亀田 浩司>

普段はクリエイティブの方々の力を借りながら作り上げていくという立場ですので、「こういうやりましょう！」と言えるような、自分の引き出しを増やせればと臨みました。その意味では沢山のヒントを得ることができました。

広告でできることの幅広さを改めて感じつつ、「食品」という生活に身近なところに属している者として、現在の主流と言われている「社会的課題の解決」とはいかないまでも、お客様にとってどんな良いことがあるのかを考えていかないと「ブランド」は淘汰されていくのだという危機感を、自身の業務に還元していきたいと思います。最後は結局「想い」というのも、この研修を通じて改めて学びました（もちろん、企業の独りよがりではダメ）。今後、今回出会えた方々と仕事で絡むことができれば最高だなと思っています。



<ロボット・宮本 諒>

今回初めて海外の広告祭に参加したのですが、自分の中で特に刺激になったことは「あまり見て来なかった海外作品を一気見できたこと」「映像ではない広告部門(PR・デザインなど)を多く知れたこと」の2つでした。正直この2つは日本でもできることですが、なかなかこういう機会がないと学ぶことがないのでありがたかったです。もちろん世界の広告祭に実際に参加できた臨場感も、ミーハーな自分にとって良い刺激になりました。

英語自体はセミナーで日本語同時通訳があり、それとなく現地の人と話すこともできましたが、やはりしっかりできた方がインプットできる幅も広がり、海外映像作品の面白さのツボもわかってくるんだろうなと思いました(受賞した作品の中で意図がわからないものが少しありました…)。それを含めて素敵な一週間、ありがとうございました。



<日本広告業協会・堀 清子>

今回研修ツアーの同行では、まずタイでの企業研修を通じてその熱気・活気に正直驚かされた。特にデジタルの普及は想像以上で、生活者への浸透は目を見張るものがあつた。国としても発展の真ただ中にいるため、社会にも広告業界にもポジティブな空気感があり、若い世代が「タイの未来は明るい」「自分たち世代が社会を動かしている」という自負の元、逆境すらも逆手にとって、未来へ向かっていくパワーを持っているのを肌で感じた。

同時にスパイクスアジアでは多数の事例・セミナーにふれ、広告は疎まれ信頼を失いがちな今日であるが、改めて今こそ原点に立ち返り「広告のもつ力や可能性」、「社会課題の解決に貢献できる力」、「デザインやテクノロジー等との掛け合わせで、無限に人の想いに応える力がある」ことを再認識できた。

研修を通じて得たことは、どれも日本では得ることのできない刺激ばかりで非常に有意義であった。日本の広告業界を取り巻く現状は明るい話題ばかりでなく、激変の時代と言われて久しい。しかし、それをチャンスととらえ「広告の力」という原点に立ち返り、盛り返すきっかけとなるよう、自分もJAAA一員として業界を盛り上げる一助になりたいと感じた、そんな研修ツアーだった。

参加者一覧

※本文中、及び一覧の敬称は省略しています。

一般社団法人 日本広告業協会			
スパイクスアジア2018 研修ツアー 参加者名簿			
2018年10月1日現在			
参加者氏名	会社名	所属・役職名	(敬称略・順不同)
1 川崎 雄也	ADK インターナショナル	クリエイティブ本部第2C R局デザイナー	
2 石井 正文	JR西日本コミュニケーションズ	クリエイティブ部	
3 秋友 宏紀	JR西日本コミュニケーションズ	営業本部ソリューションセンターインタラクティブコミュニケーション部プロデューサー	
4 島田 京代	電通アドギア	アカウント・プロデュース室コミュニケーションデザイン部プランナー	
5 菅家 裕規	電通アドギア	アカウント・プロデュース室AP1部	
6 塚崎 一郎	電通九州	コミュニケーションデザイン局コミュニケーションプランニング部兼デジタル・マーケティング・センター デジタル・ソリューション・ユニット	
7 左 俊幸	電通九州	クリエイティブ局クリエイティブ1部兼デジタル・マーケティング・センター デジタル・ソリューション・ユニット	
8 日月 雅人	日本経済社	クリエイティブ局第2グループコピーライター	
9 中嶋 悠太	メトロアドエージェンシー	営業本部 第2営業局 営業開発部	
10 春日沙央里	花王	作成部門広告作成部デザイナー	
11 花井 美貴	花王	作成部門広告作成部ヒューマンヘルスケアグループグラフィックデザイナー	
12 久原 千枝	花王	作成部門広告作成部スキンケア・ヘアケア広告作成部コピーライター	
13 亀田 浩司	ハウス食品	事業戦略本部マーケティング部 広告制作課チームマネージャー	
14 宮本 諒	ロボット	クリエイティブ本部クリエイティブ部プランナー	
15 堀 清子	日本広告業協会	事務局	
15名 (9社・1事務局)			



スパイクスアジア2018

研修ツアー

バンコク & シンガポール

<特別企業研修>・博報堂生活総合研究所アセアン

・ENSEMBLE THAILAND

・Rabbit Digital Group



一般社団法人 日本広告業協会

■日程

2018年9月24日(月)～9月30日(日) <6.5日間>

■訪問都市 バンコク&シンガポール

■参加費 ※スパイクスアジア登録料を含む。

310,000円 Young Creator(Agency)

(28歳以下で1989/9/28以降に生まれた方)

379,000円 ALL (年齢制限なし)

<ヤングクリエイター28歳以下60,000円/年齢制限なし120,000円>

■申込締め切り

2018年7月5日(木) ※事前登録Early Birds対応

■出発前事前研修会2回実施

※7月27日 顔合わせ会・自己紹介・企業研修内容説明など

※9月11日 事前研修

・テーマ 「スパイクスアジア参加におけるTIPS」

・スピーカー 淮田 哲哉氏(博報堂 データドリブンマーケティング局 グローバルデータマーケティンググループグループマネージャー)

■宿泊ホテル バンコク The Twin Towers Hotel Bangkok

88 Rong Muang, Patumwan Thanon Rama VI, 10330 Bangkok
ニューラマ6世通りにあり、地下鉄BTS国立競技場駅まで徒歩圏。

■宿泊ホテル シンガポール Hotel Royal @ Queens

12 Queen Street, 188553 Singapore

*SA会場徒歩15分。*MRT ブギス駅から徒歩5分。
ブギスに立地交通至便な16階建て高層ホテル。

■旅行取扱代理店 ベストワールド株式会社

担当 児島氏(添乗員)・尾谷氏 観光庁長官登録旅行業第145号

〒101-0047 東京都千代田区神田1-7-4

TEL 03-3295-4111 FAX 03-3295-4118

<発行◎> 2018年10月29日(JAAA Website 掲載)

一般社団法人 日本広告業協会 海外交流委員会

〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17

TEL 03-5568-0876 FAX 03-5568-0889

Spikes Asia Study Tour 2018 Schedule

1	9月24日 振替休日	月	出発	成田空港 8:45集合 成田空港 10:50出発→ <TG641>→バンコク15:20到着 到着後懇親会(ソブンーン・レストラン)	ホテル; The Twin Towers Hotel Bangkok
2	9月25日	火	バンコク企業研修	10:00-11:30 HAKUHODO Institute of Life and Living ASEAN 13:00-14:30 Ensemble THAILAND 15:30-17:30 Rabbit Digital Group	ホテル; The Twin Towers Hotel Bangkok
3	9月26日	水	Spikes Asia 2018	バンコク11:15出発 <TG413> → シンガポール 14:30到着 PM 登録・カンファレンス参加	ホテル; Hotel Royal @ Queens
4	9月27日	木	Spikes Asia 2018	セミナー、展示、カンファレンス参加	ホテル; Hotel Royal @ Queens
5	9月28日	金	Spikes Asia 2018	セミナー、展示、表彰式、 アフターパーティー参加	ホテル; Hotel Royal @ Queens
6	9月29日	土	日本へ帰国	出発まで自由視察 シンガポール 20:50出発 → <TG410> → バンコク22:10到着 «バンコク経由便» バンコク23:35発→<TG626> →	(Night Flight)
7	9月30日	日		→ 成田空港 10:00到着 «バンコクでの豪雨のため、到着遅延あり» (入国後解散)	

※TG=タイ国際航空。